

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第26週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第26週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第26週（令和4年6月27日から令和4年7月3日まで）

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）RSウイルス感染症 3）流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.43人と前週（5.59人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.73人と前週（0.95人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“知っていますか？～サル痘～” について取り上げました。

サル痘は、人と動物の共通感染症で、主にサル痘ウイルスを保有する動物に咬まれることで感染するといわれています。感染したサルから発見されたため、サル痘と呼ばれていますが、自然界でウイルスを保有している動物は、アフリカに生息するネズミやリスなどのげっ歯類とされています。

従来はアフリカからの報告が主でしたが、2022年5月以降は、ヨーロッパ及び北米において発生の報告が相次いでいます。また最近では、シンガポールや韓国、台湾等アジアからも報告がみられるようになりました。サル痘は、水痘やその他の発しんを生じる疾患との鑑別が難しいため、発しん等の症状が出現した方で、サル痘常在国に滞在した方や、サル痘症例が報告されている国に滞在歴があり、他者との濃厚接触があった方等は医療機関に御相談ください。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木

電話044（200）2446

川崎市健康安全研究所 三崎

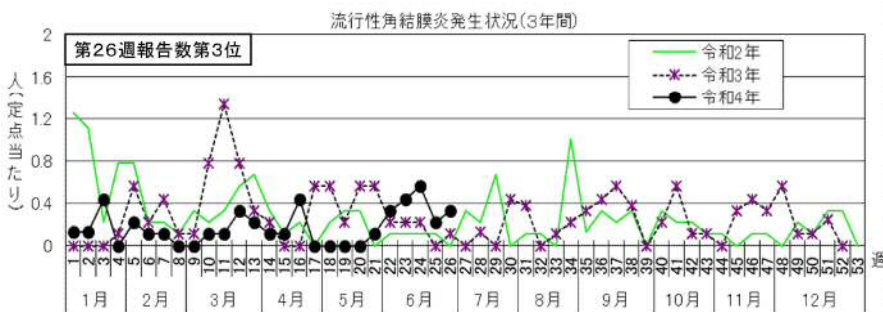
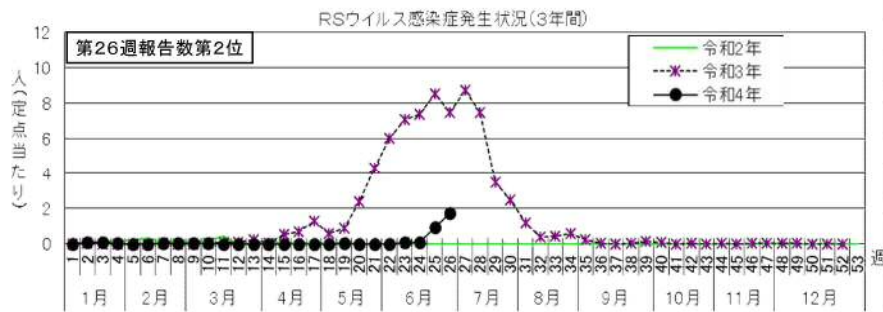
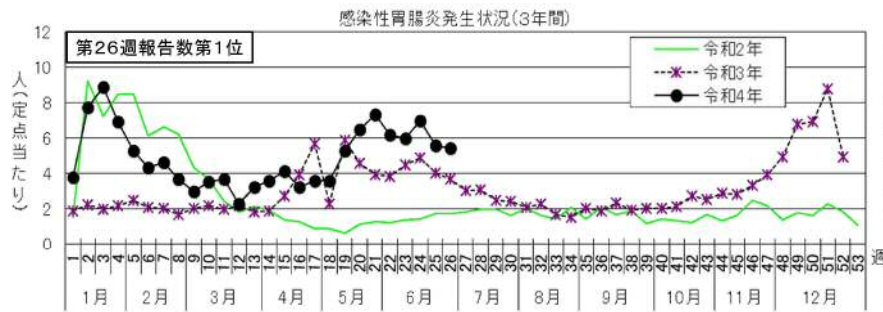
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年6月27日（月）～令和4年7月3日（日）〔令和4年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）RSウイルス感染症 3）流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.43人と前週（5.59人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.73人と前週（0.95人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？～サル痘～

サル痘は、人と動物の共通感染症で、主にサル痘ウイルスを保有する動物に咬まれることで感染するといわれています。感染したサルから発見されたため、サル痘と呼ばれていますが、自然界でウイルスを保有している動物は、アフリカに生息するネズミやリスなどのげっ歯類とされています。

従来はアフリカからの報告が主でしたが、2022年5月以降は、ヨーロッパ及び北米において発生の報告が相次いでいます。また最近では、シンガポールや韓国、台湾等アジアからも報告がみられるようになりました。サル痘は、水痘やその他の発しんを生じる疾患との鑑別が難しいため、発しん等の症状が出現した方で、サル痘常在国に滞在した方や、サル痘症例が報告されている国に滞在歴があり、他者との濃厚接触があった方等は医療機関に御相談ください。

サル痘とは？

【感染経路】

感染した動物や人の血液、体液、皮膚病変部との接触により感染

【潜伏期間】

5～21日間（通常7～14日間）

【主な症状】

発熱やリンパ節の腫脹が数日持続した後、顔面を中心に発しんが出現（手のひらや足底等にも出現）

【経過】

2～4週間で自然に軽快

※小児や妊婦、免疫不全の方は重症化に注意が必要



世界における2022年7月1日時点でのサル痘の発生状況



CDC 2022 Monkeypox Outbreak Global Map より抜粋